

SY9-4

療育・リハビリテーションにおける保健・医療

山口 直人

川崎市北部地域療育センター

療育・リハビリテーションをはじめとした発達支援は、過ごす時間の長い家庭・教育・福祉の場面が中心となって実践されることが多く、比較的短時間の関わりとなる医療・保健スタッフの役割は医療機関のそれと異なることが多い。子どもの成長・発達に医療・保健スタッフが役立つためにはどのようなものが必要だろうか。

まず共有したいのは共通の枠組みである。子どもひとりひとりの特徴やニーズを捉えるにはWHOの国際機能分類(ICF)の枠組みが役立つ。支援の目標は疾患や機能障害の改善だけでなく、生活の様々な場への参加の制限が少なくなることを目標とする必要がある。また、地域社会の支援のあり方としてはWHO/UNICEFのEarly Child Development (ECD) and Disabilityの枠組みが役立ち、一般の子育てサービスの中で発達支援が行われること、早期発見／介入／評価、ライフサイクルに合わせた継続支援、特性に合わせた専門的支援、家族支援、多機関協働、地域に基づくリハビリテーション、社会啓発、データ収集／調査などが重要とされている。

この枠組みの中で、療育センターは医療型の発達支援施設として専門的支援の役割を担うことが多く、多職種によるチームアプローチがそれぞれの場面で実践されている。シンポジウムでは医療型障害児入所施設での集中プログラム(親子入所)と、地域の医療型児童発達支援センターでの支援の一部を紹介したい。

加えて、施設内のみならず、家族が生活する地域で子どもの教育・福祉の場への参加が広がるために、医療・保健スタッフや多職種連携の役割は重要である。指導的な役割が重視されがちだが、効果のある助言や指示をして現場の実践につながるには、専門的知識に加え、敬意や労いの気持ちを持って現場スタッフの話をよく聞き、共同で意思決定する姿勢が必要と考えている。

今後への課題としては、支援に必要な専門的知識の広さ、コミュニケーションやマネジメントの経験／学びの不足、マンパワーの乏しさ、連携にかかる時間等の負担、年々増えるニーズ、十分とは言えない診療報酬など複数あり、個人や施設レベルのみではなく、学会や地域全体、国などのレベルで引き続き取り組まれる必要がある。